

経営比較分析表

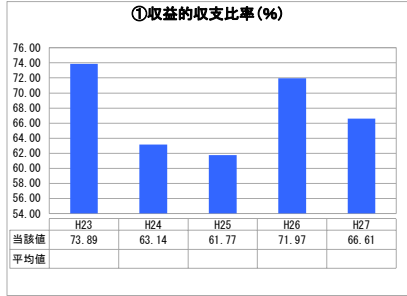
北海道 黒松内町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	9.39	100.00	3,920

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,023	345.65	8.75
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
279	344.47	0.81

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
□	平成27年度全国平均

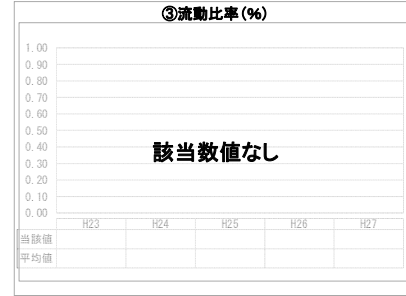
1. 経営の健全性・効率性



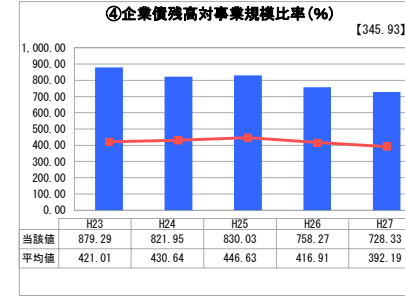
「単年度の収支」



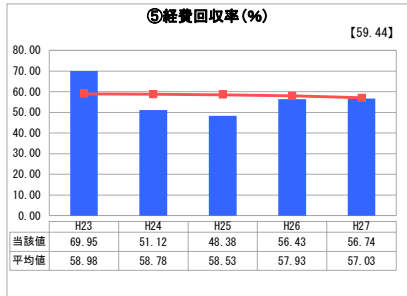
「累積欠損」



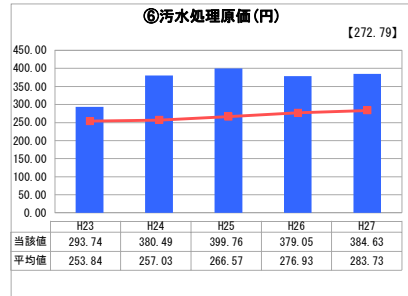
「支払能力」



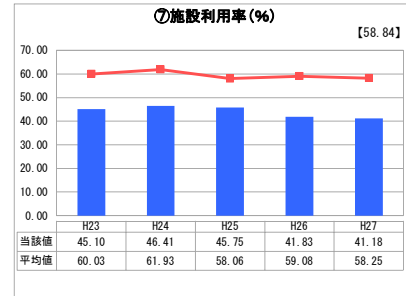
「債務残高」



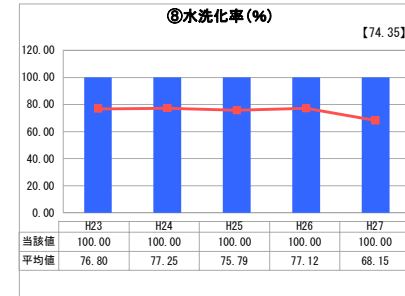
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

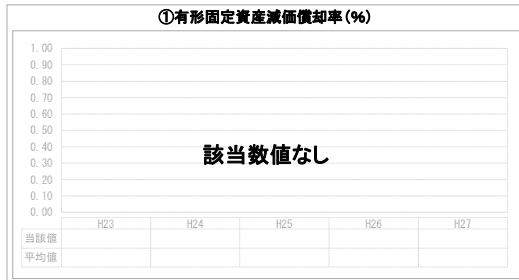


「施設の効率性」

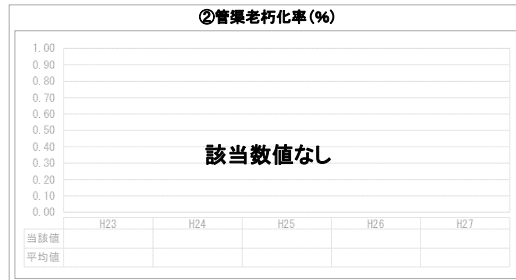


「使用料対象の捕捉」

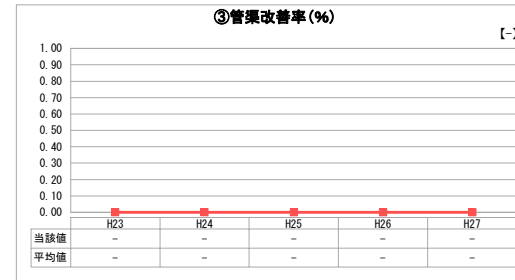
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・収益的収支比率については、100%を下回っており、使用料収入で維持管理費の全てを賄えず、地方債償還金と併せて、一般会計からの繰入金で賄っている状況である。

また、企業債残高対事業規模比率は類似団体と比較し、高くなっているが、短期間（平成18～21年度）で多くの浄化槽設置を行ったためと思われる。すでに設置事業は終わっているため、今後は減少する見込みである。

浄化槽設置世帯については、高齢者世帯が非常に多く、浄化槽(5人槽)1基当たりの処理人口がほぼ1～2人となっているため、施設利用率が低く、使用料収入も少なくなり、汚水処理原価は高くなっている。

2. 老朽化の状況について

・平成18年度からの事業であり、本体の老朽化はまださほど進んでいない。

全体総括

・当町の特定地域生活排水処理事業の経営は、一般会計からの繰入金で賄っている部分が多く、健全・効率的な経営を行うために、未納額の解消や使用料改定の検討が必要と思われる。

ただし、当事業については、下水道処理区域以外の生活排水対策であり、その受益者のほとんどが高齢者世帯であるため、使用料の改定は難しいのが現状である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。